

備える

その44「震災教育」

六千人以上の死者を出した阪神大震災から十二年余。被災地の神戸市では、約百万人の人口のうち今は四分の一が震災の体験がないと言われる。震災の風化が危ぶまれる中で、「あの日」の記憶をどうつなぎとめ、教訓を残そうとしているのか。東海地方では手探りの震災教育が始まったばかりだ。
(社会部・岩佐和也)

舞子高校 (神戸)

神戸市東灘区の兵庫東 舞子が大きかった長田区の立舞子高校では二〇〇二街を歩き、震災で被災した年々。全国で初めて防災 た人々から話を聞くなど専門とする「環境防災の校外学習にも取り組ん科」が設置された。定員でいる。一、二年生は年が四十人。授業の三分の一に一回、神戸市消防学校が専門科目で、カリキ ュラムの底流にあるのは、の実習もある。一昨年「社会の防災力」の強化は、台風で大きな被害をだ。阪神大震災では亡くなった人々の九割が地震発生から十五分以内に死訪れ、ボランティア活動亡。一方、助け出されたを続けるなど活動は幅広人。のぼ八割は近所の自らの「震災体験記」つ実を教訓に、消防や自衛隊に頼らない「自助」「共助」の能力を高めるなどとして当時の様子をまもっている。

体験記や泊まり込み実習「あの日」の教訓を残す

「震災は、どんな職業に就く」と市教委は言う。いてもいい。ただ、被災者らでつくるNPP防災の意識を持って将来 O 法人「17希望の灯的には地域のリーダーに」(HANDS)は、育つてほしい」と話す。全国各地に講師を派遣神戸市は、市内の小中し、震災の体験を語り続学校二百五十三校で副読 けている。神戸市東灘区本を使つて震災を記憶に 被災した、妹を亡くしたとめる教育を続けている。加藤いつかさん(ごもそ)の。小学生は新八生の一。三月十六日には一部と五年生以下は震災 名古屋市昭和区の駒方中後の生みだから、震災 学校に招かれ、自らの体験を知らない。市教委は昨 験や地震発生時の備えな年三月、副読本を改訂し 直後はショックから加藤ていた震災直後の写真を 行為も体験した加藤大幅に取り入れた。年 人「震災から何年かは五、六回ほど行っている 人ともきけなかった。防災訓練も、予言など 行った学校が増えている。 った今は、自分の体験が「いざというときに何が 思っている」と話した。できるかを学び取ってほ



加藤いつかさん(右)の被災体験談を真剣に聞き入る生徒たち。3月16日、名古屋市昭和区の駒方中学校で

防災地図作りに挑戦

尾鷲・宮之上小
「透明のシートに浸水被害の予想範囲を描き、地図の上にかぶせると、自分の家の被害規模が一目で分かるように工夫した。昨年十二月、日曜参観を利用し、防災イベントを企画した。作

高齢者宅を200軒訪問

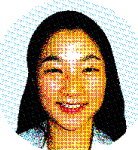
田原・野田中
愛知県田原市の野田中学校では「いざ出動! 野田地域防災調査隊」と名前を付け、三年生が総合学習の時間に年間約百時間、校内の防災について研究した。生徒たちは九班に分かれ、高齢

総合学習の時間活用

名古屋・大曾根中
名古屋北区の大曾根中学校では〇〇四年度、一年生が総合学習の時間を使って地域の防災を学んだ。一年生約二百人を大曾根レスキュー隊と命名。「家庭の備え」「まわりの安全確認」「救急救命」「避難所の生活」をテーマに四つの班を結成した。

安藤友紀事務局長に聞く

NPO法人 キャリア・ワールド
始まったばかりの震災教育を広めるためには課題も多い。内閣府の後援も受けて2004年度から全国各地の防災教育の支援に取り組んでいるNPO法人「キャリア・ワールド」(東京都千代田区)の安藤友紀事務局長(写真)は「被災地や被災想定地域でバラバラに防災教育が行われ、無駄が多い」と指摘する。まず、知識と情報の共有が必要だ。
(社会部・福田要)



安藤友紀事務局長

身近な活断層

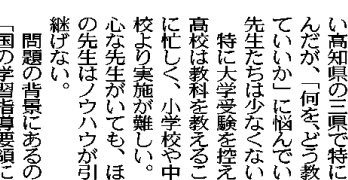
木曾三川を眼下に見ながらへりは西へ向かう。山々が目前に迫る。動かさるこの山のこと、そんな言葉がびたりと当てはまる。養老山地。しかし、それは動かさる山ではない。養老山地と濃尾平野の境に養老断層が走っている。この断層は、南に延びる案

養老断層

名四日市断層とともに、千四百年から千九百年間隔で活動し、マグニチュード(M)8程度の大地震を繰り返して来た。断層となった天正三(一五八六)年に起きた天正地震(大)に、現在の養老山地へ上がり、現在の養老山地へと成長した。養老断層の活動歴は不明

堆積層2キロ 神戸に酷似

日本列島周辺はプレート(岩板)同士がぶつかる場所。その境目で海溝型地震が起きるが、それで終わるのではなく、プレートが押し合う力は遠く内陸部にも及ぶ。これが内陸で起こる活断層地震の原動力になる。過去に例を見ると、南海トラフで海溝型地震が発生する前後に内陸の活断層による地震が頻発している。愛知県が濃尾平野の地下構造を調べると、西へ向かうにつれて軟らかい堆積(たいせき)層が厚くなっ



養老断層の位置と周辺の地形。養老断層は養老山地と濃尾平野の境に走っている。養老断層の活動歴は不明

防災教育を教科扱いに

わたしたちは全国の学校や地域グループから防災教育の計画(チャレンジプラン)を募り、年間で二十件を選んで資金援助や、講師紹介などの情報提供をしている。阪神大震災が起きた兵庫、東海・東南海地震への対策を進める愛知県、津波への危機感が強い高知県の三県で特に盛んだが、「何を、どう教えるか」「何を、どう教えるか」に悩んでいる先生たちは少なくない。特に大学受験を控えた高校は教科を教えることに忙しく、小学校や中学校より実施が難しい。熱心な先生がいても、ほかの先生はノウハウが引き継げない。問題の背景にあるのが「国の学習指導要領に防

防災教育の輪を広げるため、わたしたちはネットを活用している。これまで選考された教育計画の担当者同士はメールリストで情報交換し、後発の活動に助言もする。防災専門家らで構成する実行委員二十四人も別のメールリストで意見を述べ合っ。事務局は両方の内容を見ながら必要に応じて現場と専門家を橋渡しする。過去に選考された教育計画の内容はすべてホームページ(http://www.bosai-study.net)に載せ、誰でも参考にできるように工夫している。

防災研究の最新成果と、学校や地域の教育現場をしっかりとつないで防災教育に関する「共通の資産」を築きたい。たくさんさんの情報や知識を蓄積しておけば、国が防災教育を教科にする方向で検討を始めた時も役立つのではないかと期待しているのだ。

生は昨年より研究を深める予定だ。同校の研究には田原市防災対策室も協力した。寺田幸弘室長は「校長会で防災教育をお願いしている。野田中の活動が他の学校にも波及してほしい」と話す。